# 編 集 後 記

地球規模で気象環境などが様変わりしているのでしょうか，昨年（2016年）も災害の多い年でした．寺田寅彦先生の名言「天災は忘れた頃に，やってくる」はあやふくなり，天災は忘れずとも確実にやってくるようです．災害の発生する度にその地の透析治療が継続できるのだろうかが懸念されるのですが，このところ，透析医会や技士会の災害情報システムが次第に素早く機能するようであり，きわめて速やかに種々の情報が提供されるようになりました．関係各位の努力が実って，良質の情報伝達システムが構築されてきているのであろうと思います．災害弱者である維持透析患者を支援する全国的な規模の官民共同の組織ができつつあることは真に喜ばしく，「備えあって，憂いのない」一層の改善を切望いたします．新年2017年はアメリカに新大統領が誕生して政情波乱含みですが，総じて穏やかな1年であることを切望いたします．

喫緊の課題に一つの解決・改善策が提示されても，その施策が効用の他に新たな問題を醸し出すということが日常臨床で皆無ではありません．医療の有意性は，①患者・家族の満足感，②医療者の有意義なことをやっているという達成感，③費用対効果（経済性）を主要な項目として評価されるのでしょうが，「一つ一つの治療に生理学的な効果があっても患者全体に益するものでなければ意味をなさない」ことを銘記しつつ，腎機能代替療法へ考察を及ぼすべきでありましょう．

さて，透析医会の会員諸兄にお届けいたしますのは会誌32巻1号で，透析医療に関わるきわめて広範囲な話題が取り上げられております．2016年11月6日，広島市で開催された本会主催の研修セミナーには200余名の参加者があり，盛会でした．セミナーの地方開催が根付いてきていることを喜びたいと思います．広島セミナーの関係論著をご一読ください．

練達の医師が精魂込めた論著はいずれも読み応えがありますので，一刻お時間を割いてお目通しくだされば幸いです．そのうえで，お気に召した・気になる論文に率直なご意見とご感想をお寄せいただきたいと存じます．かくすればQOJ（Quality of Journal）が向上すること，間違いありません．

2017年は「公益社団法人日本透析医会」の創設30周年の節目の年に当たります．礎を築いた先輩諸氏の苦労に思いを馳せながら，一歩前進する気概を互いに持ちたいと祈念いたします．

広報委員　大 平 整 爾